

あんな人 こんな人

楽しい落語で人の心をほぐしたい

自称素人落語家 濱ノ家真砂さん

(貝津町)

見~つけた!



今年もあともう少し。いろんなことがあった平成17年。来年も笑顔いっぱいになるの良いですね。今月のあんな人こんな人は、昔ながらの庶民の笑い・落語を地域の小学校やコミュニティセンターなどで披露し、活動されている濱ノ家真砂こと石川博詞さんをご紹介します。

もともと、東京育ちで子どもの頃から、落語に親しみがあつた石川さんの本職は、牧師さん。そんな石川さんが、本格的に落語を始めたきっかけになったのが、地域の小学校で行われる読み聞かせの図書ボランティアに参加したことでした。そして、今では、聖書や仏教の説話集などを参考にした自作の落語もレパートリーに加え、年に数回活動されています。

また、濱ノ家真砂という面白い芸名の由来は、子ども用のニッケンーム・石川五右衛門の辞世の句「石川や

濱の真砂は尽きるとも世に盗人の種は尽きまじ」からと話されました。

そして、尊敬する落語家は、三遊亭圓生・古今亭志ん朝の両師匠だそうです。

落語の中では、子どもたちがよく知らない言葉も使われます。改まった言葉や意味などの説明が難しい言葉もあり、あまり説明しすぎると面白さが半減してしまうことが落語家として苦労されている点だそうです。これまで、意味が通じず、外国人と話しているかのような雰囲気になった経験もあるとか。しかし、子どもたちが落語を通じて、落語に興味を持ってくれたり、人生訓について学んだりすることで、自分の家族や人とのコミュニケーションの潤滑油になって欲しいと話されました。

そして、これからは、機会があれば、老人会などの学校以外の場所でも、落語を披露していけたらと抱負を話されました。

落語の魅力について尋ねると、先生の面白さや人の足りなさに気づかされることと石川さん。これからもたくさん笑いで、ちよつびり硬くなったみなさんの心を解きほぐしてもらいたいものです。これからの活躍に期待しています!